

# 継続的な海外学校間交流学習を実現させるための TV会議システムを用いた実践モデルの開発(2) ーシンガポール日本人学校との交流ー

笹川清喜*1	山路 進*2	若林 晃一*3
Seiki Sasagawa	Susumu Yamaji	Koichi Wakabayashi
直井一馬*4	鈴木 良典*5	波多野 和彦*6
Kazuma Naoi	Yoshinori Suzuki	Kazuhiko Hatano
片岡 靖*7		
Yasushi Kataoka		

渋谷教育学園幕張中学校高等学校\*1,5 (財)日本私学教育研究所\*2

渋谷教育学園渋谷中学高等学校\*3

早稲田大学系属・早稲田渋谷シンガポール校\*4

独立行政法人 メディア教育開発センター\*6 日本電気(株)\*7

海外校とのTV会議の事例は、増えているものの  
中等教育の事例は少なく、**イベント的**なものが多  
く見られる。

その理由として

- 時差の問題
- 言葉の違いで、本来の議論ができない問題

# 目的

本研究では、リアルタイムの海外学校間交流として、これまでに例のない、  
時差や言葉等の負荷が少ない“シンガポール日本人学校”との間で、  
主に、生活環境の相違を題材とした情報交換や学習指導を通して、  
遠隔地との交流学習を継続する実践可能な交流モデルを開発することを目的とする。

生きた学外の知の活用

# 「渋谷教育学園国際テレビ会議活用研究プロジェクト」

渋谷教育学園

渋谷教育学園渋谷高等学校・同中学校  
渋谷教育学園幕張高等学校・同中学校  
早稲田渋谷シンガポール校(高等部)  
渋谷幼稚園  
ブリティッシュスクール・イン・トウキョウ(英国人幼・小・中学校)



千葉・幕張



東京・渋谷



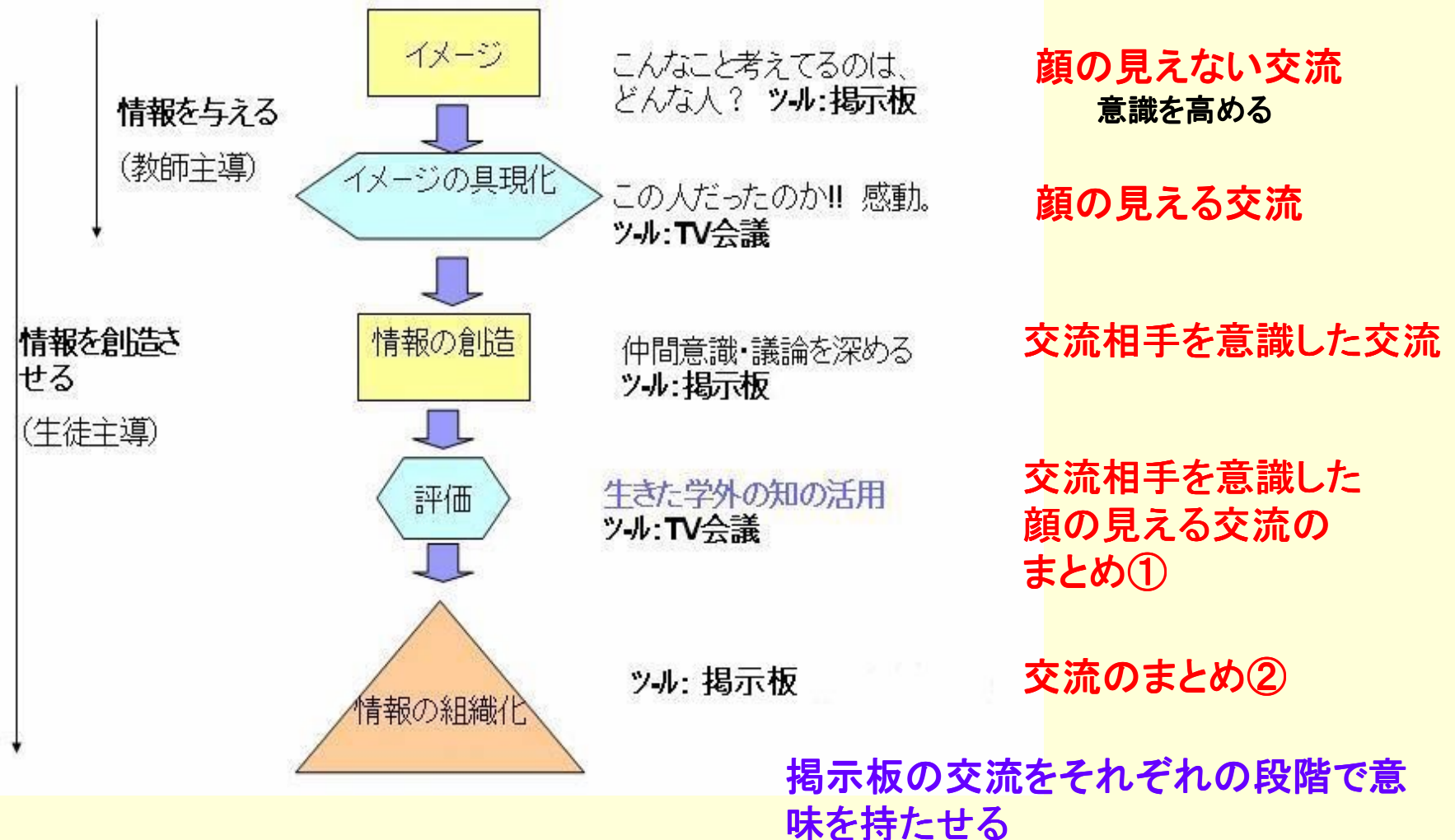
シンガポール

課外活動として実施

生徒の参加を呼びかけてメンバー決定。

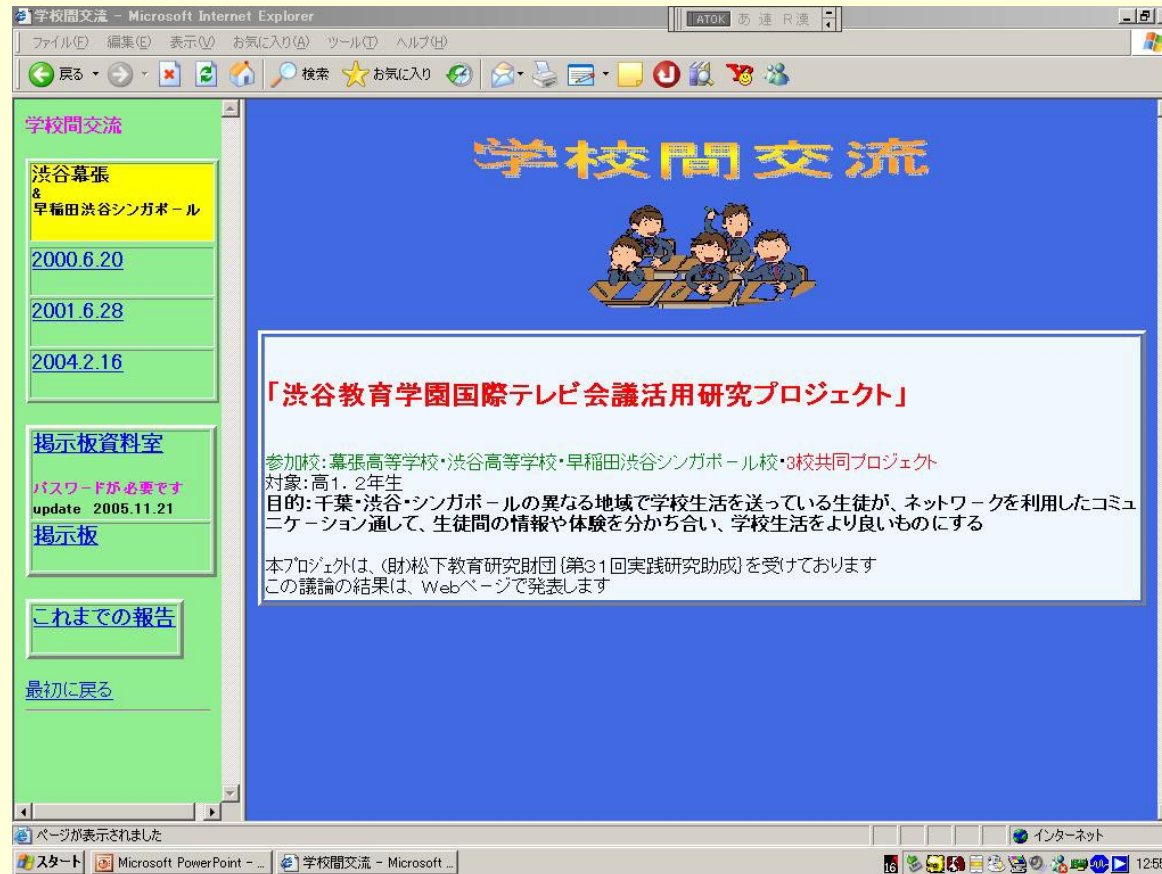
教師間の連絡を密にするためにメーリングリストを設定

# 実践モデルの開発



継続的な学校間交流を行っていくためのモデル

# 交流のために作成したWebページ(掲示板 & 資料室)



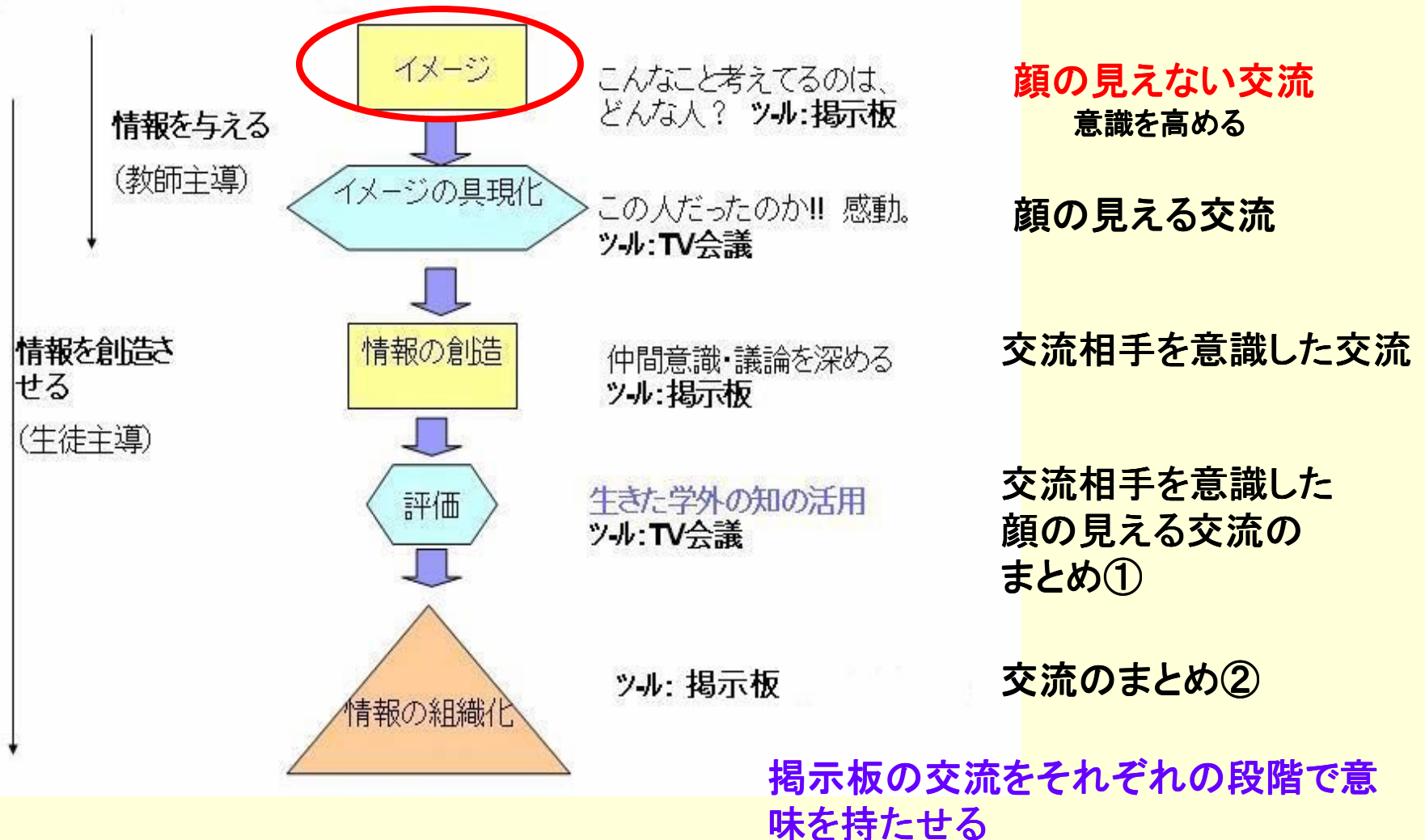
顔の見えない交流

交流学習を継続するために必要な要因や学習者に要求されるスキル等から  
フォトレーター掲載(各学校の施設写真集)

顔の見える交流

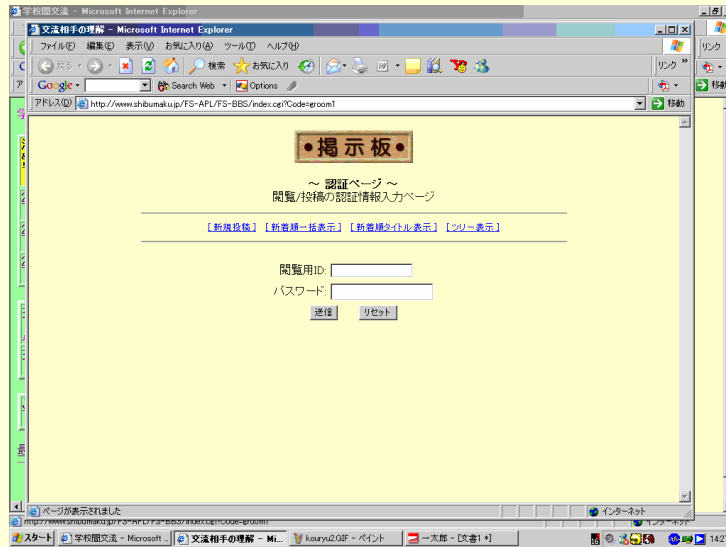
TV会議後に各校のプレゼンテーションデータ掲載

# モデルの実践



継続的な学校間交流を行っていくためのモデル

# 掲示版



顔の見えない交流では、

書き込み際には、名前がわからないように配慮: 渋谷幕張高 笹川 → 渋谷幕

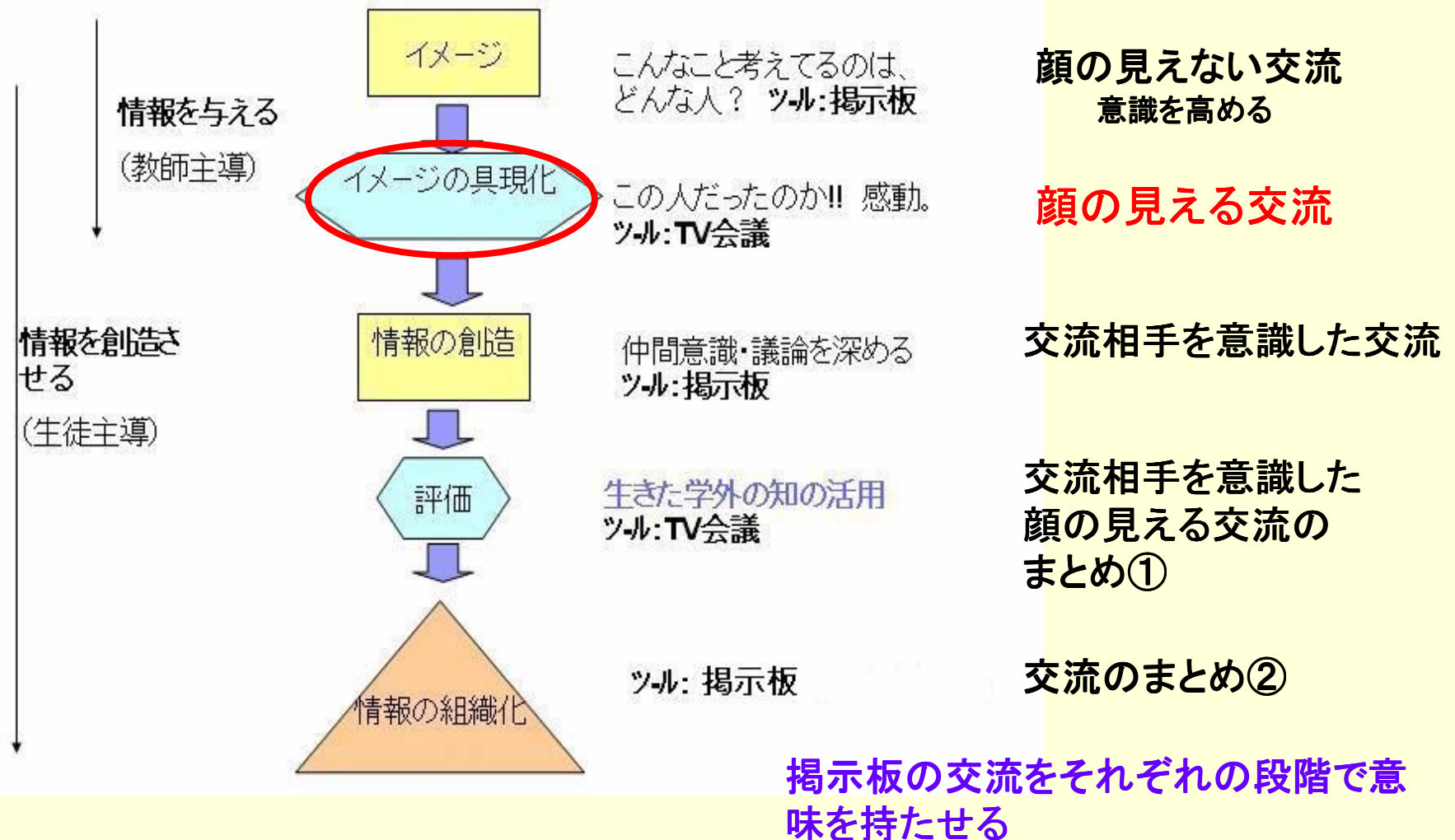
●ネットワークパスワードで管理

●生徒が書き込みをすると、教師に書き込み内容がメールで送られてくる

No.		テ - マ	備考
掲示板 1	交流相手の理解	<u>「パンフレットではわからない生徒から見たそれぞれの学校素顔について」</u>	
掲示板 2	本テ - マ	<u>「日本在住の日本人と海外在住の日本人の価値観、生活の違いについて」</u>	TV会議を行います



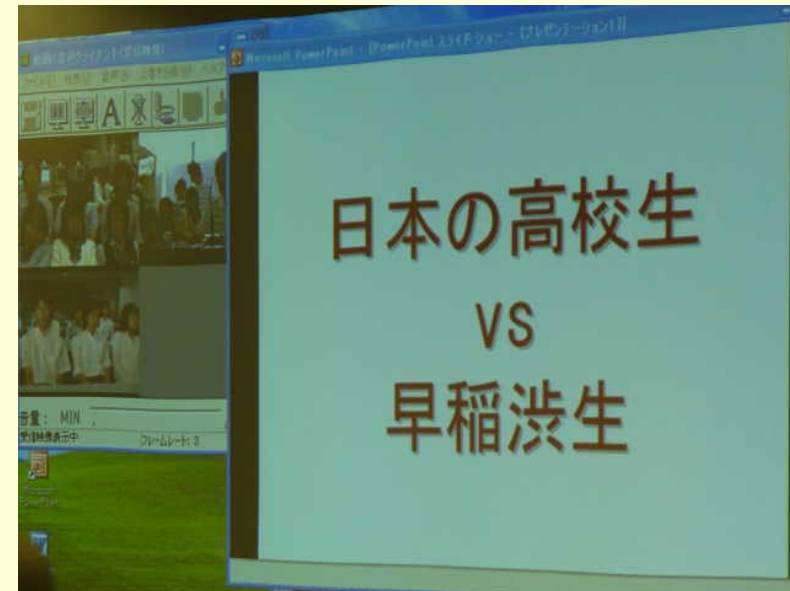
# モデルの実践



継続的な学校間交流を行っていくためのモデル

# 第1回TV会議

(9月26日(月)日本時間17:30~18:20 下校時刻18:30)



- 1.自己紹介
- 2.プレゼンテーション(順序 渋谷校 → 幕張校 → シンガポール校)  
制限時間は5分程度、パワーポイントの様式は自由とする
- 3.意見交換(プレゼンテーションの内容についての意見交換や質問など。)  
※教員は、教員間チャットルームを開設し支援した

TV会議で使用するソフト:i-Collabo.Live(NEC)

# 第1回TV会議

会議では、  
始め、シンガポール校から通信ができず、予定時刻を約10分程過ぎて開始し、  
さらに、会議中に数回、通信が切れた。  
しかし、  
交流相手が、言葉の負荷がない「シンガポール日本人学校」であったので、  
教員間チャットルームでの対応により、通信の復活も早く対処できた。  
この結果、  
予定していた時間の短縮を余儀なくされた。

「あえて名前を伏せ、掲示板で交流させた後にTV会議を実施する」モデルの実践であったが、生徒の様子から、  
このモデルは、  
生徒に親しみを感じさせ容易に会議に導き、  
第1回目のTV会議で始めて交流相手の顔を知ることによって感動を深め、  
会議に取り組む姿勢を高める効果があることを確認できた。

しかし、  
本テーマ

「日本在住の日本人と海外在住の日本人の価値観、生活の違い  
について」

が抽象的であったために、各校のプレゼンテーションに隔たりがあったこと、意見交換する時間が20分程と少なかったことで、深い議論までには至らないで終了した。

それでも、生徒は、次の会議に繋げるために、生徒指導で、掲示板の利用を呼びかけ、より具体的なテーマに変更することを合意し会議を終了した。

# モデルの実践

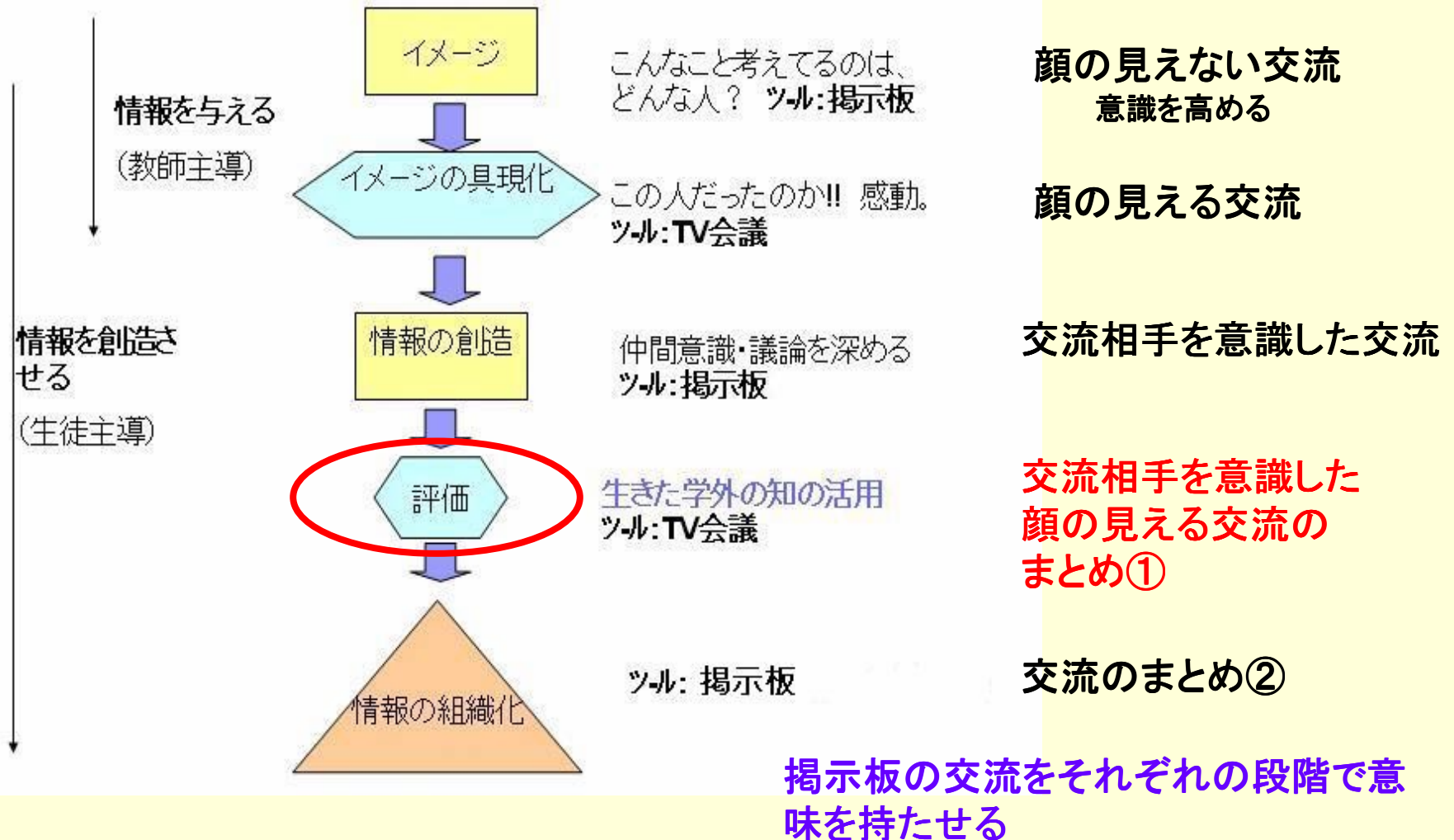


継続的な学校間交流を行っていくためのモデル

## 第1回TV会議後の掲示板の書き込み

第1回TV会議後の掲示板の書き込みが、次回の会議を強く意識したものとなり、明らかに、掲示板の利用の態度に変化が見られ、生徒指導で交流をしていく態度へと変化した

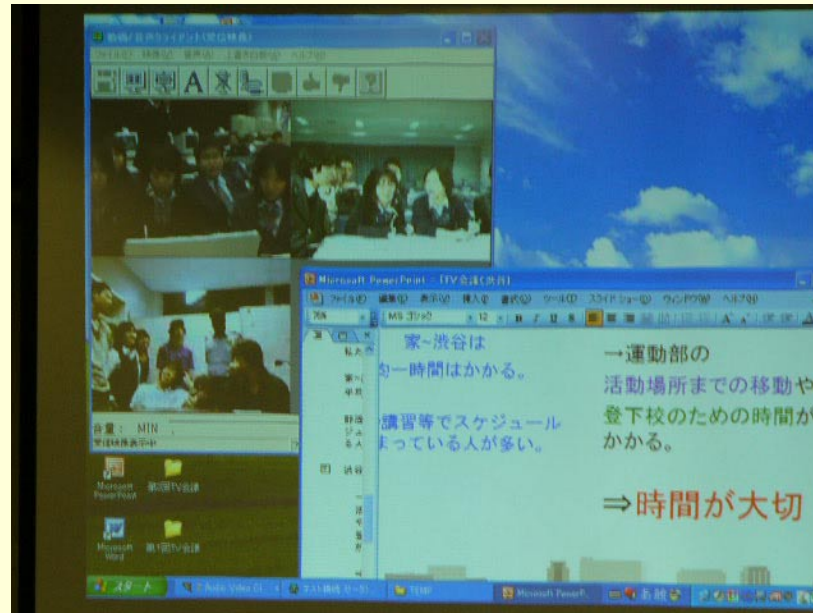
# モデルの実践



継続的な学校間交流を行っていくためのモデル

# 第2回TV会議

(11月19日(土) 日本時間15:00~17:30 下校時刻17:30)



スクリーンに映し出された3校の様子



幕張校の様子

注) スクリーンとPC&カメラを平行に配置し、視線を配慮した。



渋谷校の様子



シンガポール校の様子



# 第2回TV会議

## ●第1回の会議と同じ進行プログラム

第1回目のTV会議後、掲示板を利用して、テーマの再検討の議論を重ね、テーマ「異なる地域に住む私たちの生活で、それぞれ今私たちが“大切”に思うことやモノ」に具体化

※教員は、教員間チャットルームを開設し支援した

会議の開始は、ほぼ予定した時刻に開始できた。

しかし、シンガポール側の回線が原因と考えられるが、プレゼンテーションの際に、突然、シンガポール校からのパワーポイントが、リアルタイムで共有できなくなり、事前に送られてきたファイルを幕張校、渋谷校でローカルでそれぞれ実行し、シンガポール校からの映像と音声を通じて説明しながらページをめくっていくことで対処した。

この様な対応ができたのも、言葉の負荷がない「シンガポール日本人校」であったことが大きい。

前回のTV会議と進行プログラムを同様にした事で、  
3校の生徒は、前回の経験をそれぞれの生徒が評価し、議論を進  
めていこうとする態度に変わっていた。

各学校のプレゼンテーションは、地域の特性を踏まえたものであり、  
「学外の知の活用」を期待したものであった。  
意見交換の時間は、1時間30分は取れ、深い議論に十分であった。

最後には、  
参加生徒全員が、それぞれ、「今私たちが“大切”に思うことやモノ」  
を述べたことで、参加した生徒全員に高い達成感を持たせることが  
できた。この事から、積極性・自主性・社会性の育成につながる「コ  
ミュニケーション」の機会を創出する目的が達成できたと考える。

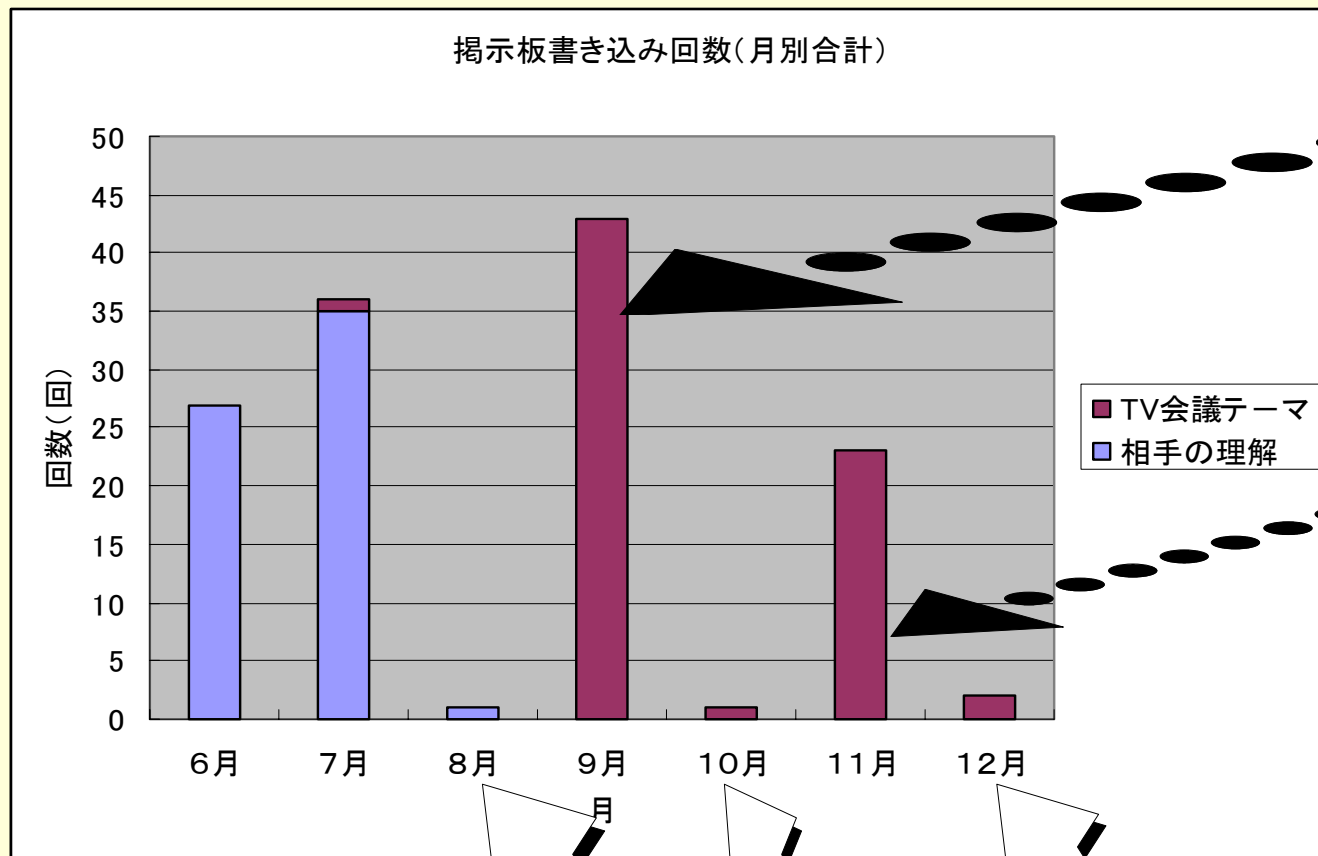
また、プレゼンテーションの作成について、

「実は自分でも、そうだったんだ、シンガポールを調べていくうちにシンガポールを知れて良かったと思いました。シンガポールに16年間住む私は、日本のことの方がよく知らないしシンガポールに慣れきっています。このような自分は海外に住んでいるんだという自覚を日本に住む人とは考え方や価値観が異なるんだと考えさせる機会を与えてくれた、ありがたいものでした。(シンガポール校)」という意見があるように、

それぞれの生徒にとって、  
本プロジェクトが、自調自考(自分で調べ自分で考える)の優れた教材になったと考える。

# 分析

遠隔地との交流学习を継続する実践  
可能な交流モデルとなったか？



第1回TV会議  
(9月26日(月))  
日本時間17:30~  
18:20 下校時刻  
18:30)

第2回TV会議  
(11月19日(土))  
日本時間15:00  
~17:30 下校時  
刻17:30)

各校の行事

## 掲示板書き込み回数(月別合計)

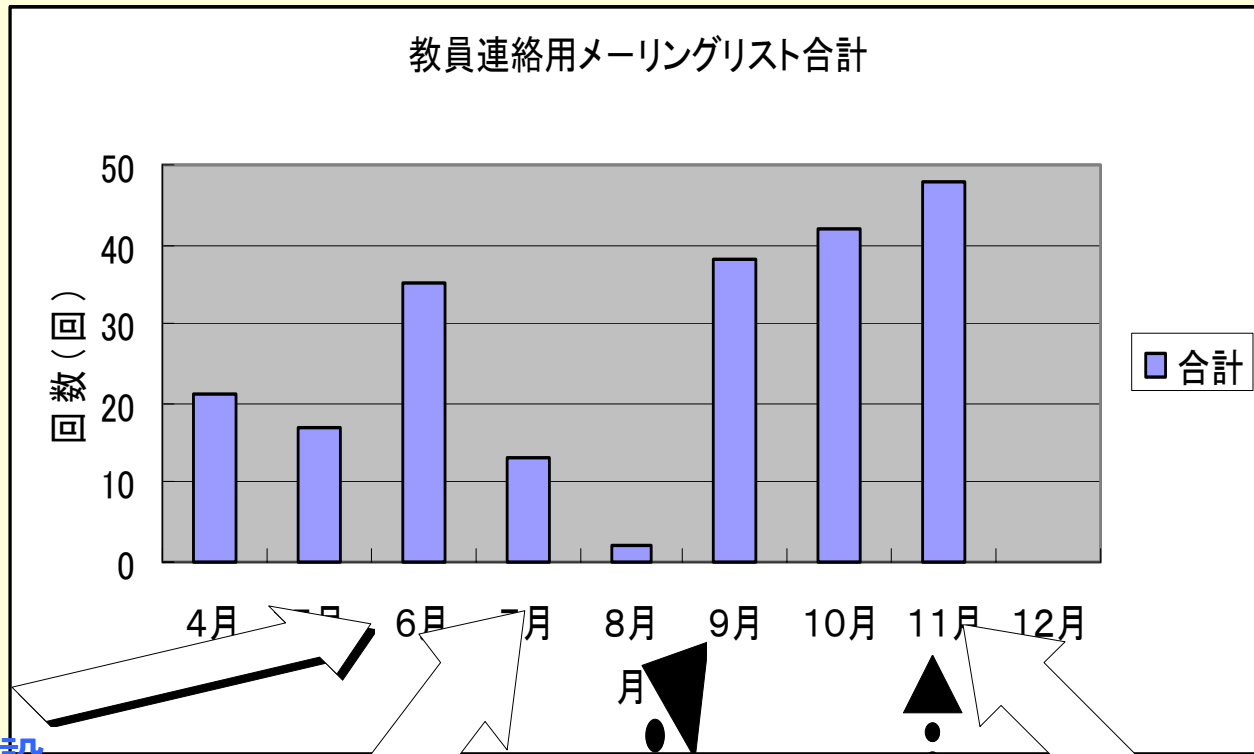
書き込み内容の変化から、教師主導から、生徒主導の交流に変化していくこと期待した本モデルの妥当性を裏付けるものである。8月は、夏休み、10月は、修学旅行・中間考査、12月は期末考査のために、継続した書き込みは困難になった

掲示板は、書き込みはしないが読むだけの生徒も多かった

# 研究の成果

1. 本研究で開発した継続的な学校間交流を行っていくためのモデルよって、TV会議を利用した交流が、**単発のイベントに終始することはなかった**。特に、第2回目の会議では、深い議論もでき、交流学習本来の目的達成に至った。生徒の意見に「**自分たちでテーマを決め、資料を集め、プレゼンテーションをして、意見を聞くというのが一貫でスムーズに行える手助けになった**。(幕張校)」とあるが、継続的な交流を意識してたと考える。
2. 掲示板の交流を**それぞれの段階で意味を持たせて、利用させてきたことが良かった**と考える。
3. これまでに例のない時差や言葉等の負荷が少ない「**シンガポール日本人学校**」との間での交流におけるノウハウも蓄積できた。

教員連絡用メールリングリスト合計



掲示板開設  
6月27日

教師間メールリングリストの月ごとの回数

TV会議テスト(教員間) (7月2日(土) 日本時間 15:00~17:30)

第1回TV会議 (9月26日(月) 日本時間17:30~18:20 下校時刻18:30)

第2回TV会議 (11月19日(土) 日本時間 15:00~17:30 下校時刻 17:30)

まとめのTV会議 (教員間) (11月29日(水) 日本時間15:00~17:30)

交流学习を成功させるためには、  
技術的な側面、利活用的な側面  
で、支援体制を整えることが重要  
で、教師間の意識の継続が必要  
不可欠であることを実感している。





# 今後の期待

教員間によるまとめのTV会議では、各校の生徒の取り組み状況や反省点等を取り上げた。お互いの学校のスケジュールを調整しながらテレビ会議に望むことは大変であったが、**今回の取り組みは、生徒に「生きた学外の知の活用」する「コミュニケーション」の機会創出を実現させるモデルとして成果を挙げたと考える。**

今回のプロジェクトは、TV会議というシステムを使うことを目的として参加生徒を募集しテーマを決定していった。今後は、蓄積したTV会議のノウハウを生かし、テーマが先となる必然的な交流を行っていきたい。

## 謝辞

本研究の遂行にあたり、松下教育研究財団の  
実践研究助成を受けた。関係諸氏にお礼申し上げます。